

小学校高学年児の家族における父親の子育て参与（第2報）

大阪教育大 ○木田淳子 大谷直美

目的 本研究は、小学校高学年児の家族における父親の子育て参与に関する総合的研究の一部として、第一報で明らかにした、強い父子紐帯の形成にポジティブに関連する父親の子育て参与について、それを促進する家族的要因を明らかにすることを目的としている。

方法 第一報と同様、大阪府下、雇用労働者家族が密集しているN市の5つの小学校の5・6年生とその父母を対象に、質問紙法に基づく自記式悉皆調査を実施した。実施期間は1989年10月下旬から11月上旬にかけてである。調査票は父用・母用・子供用の三種類を一組とし、各学校を適して配布、回収した。配布数は1696組、そのうち父用・母用・子供用が共に記入されているものを有効票とし、有効回収票1381組を得た。有効回収率は81.4%である。

結果 日頃、子供のことで夫に話しかけたり相談したりするといった妻の態度は、父親と子供の接触頻度の高いことと関連している。又、そうした妻の態度は夫妻間の相互理解の程度が高い場合に、やや多く見られる。更に、夫が子供時代に経験した父親との交流のあり方や、現在の自分の家族について夫が抱いているイメージ、共働き家族か否か、夫の帰宅時間が早いか遅いか等も、父子の交流に幾分差異をもたらしめている。